

## エレベーターに関する案内サインの考え方（案）

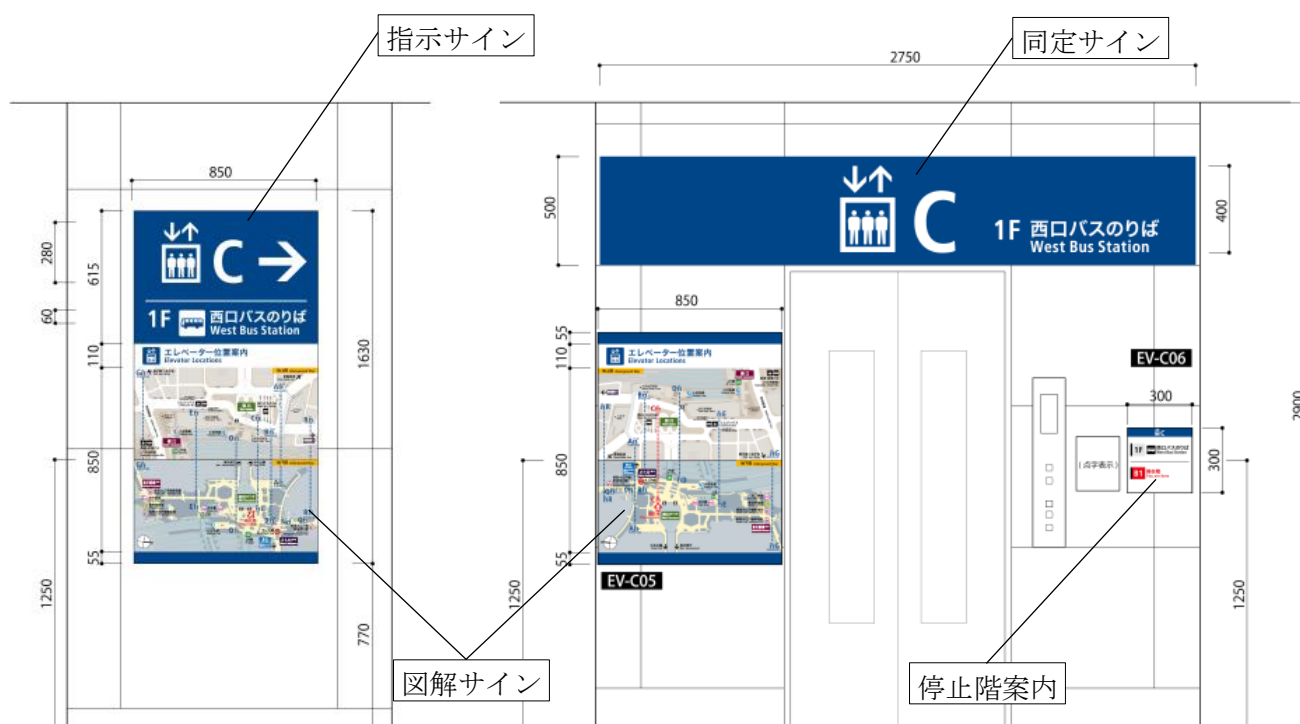
### ■目的

段差に対する迂回経路の案内を充実させるため、エレベーターに関する案内サインを独立したサインシステム（サブシステム）として各管理者が整備する。

### ■基本的な考え方

- 乗り換えやターミナル内の移動に使用されるエレベーターに通し記号を付け、指示サイン、図解サイン（エレベーター位置案内）、同定サイン及び停止階案内により案内する。
- 「サイン計画」の指示サインと、表示方法及び情報の連続性において、整合を図ったものとする。
- 使用する色彩は、高齢者や色覚障害者等に配慮し、明度差・彩度差を確保した配色とし、ベース色は指示・誘導を意味する青（安全色）とする。
- 指示サイン及び同定サインについて、遠くからでも視認できるよう、可能な限り大きな文字を使用する。
- 図解サイン（エレベーター位置案内）及び停止階案内の掲出高さについて、車いす使用者と立位の利用者の双方の視野等を踏まえ、原則として、中心高さを125cmとする。

### <整備の例>



＜エレベーター位置案内（図解サイン）の例＞

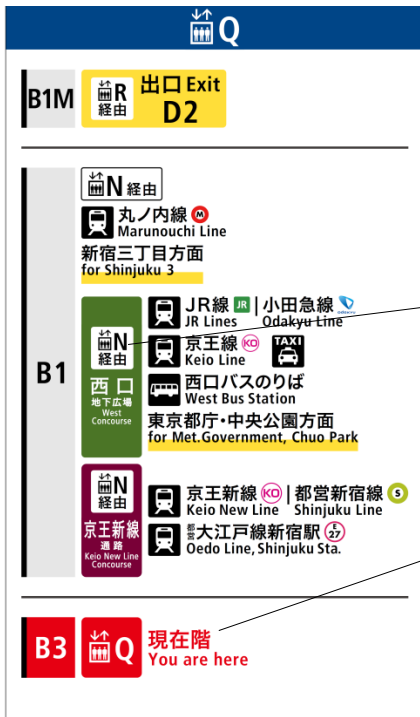


上下の繋がりを表現

現在地のE Vのみ赤色で強調

階層毎に色分けし、高さの違いを表現

＜停止階案内の例＞



経由するE Vを記載

現在階を赤色で強調

■ 整備の進め方

- 「エレベーターサイン計画」において、各サインの配置、表示内容の詳細を定める。
- 他の案内サインと同時期に整備するなど、計画的に整備を行う。